防災訓練で、アルミ缶を利用した簡易式ランタンを作成。防災に活用できるユニークなアイデアを取り入れるなど、参加者が楽しめる訓練を心掛けている。

# 会場まで徒歩1分。近所の17世帯による防災訓練は、身近で取り組みやすい

■ 高橋 忠男さん
つつじが丘南6番町
第4班自主防災チーム代表

## 17世帯でつくる自主防災チームで防災訓練

新潟県中越地震が起きた際、テレビで住民が助け合った小さな集落では被害が少なかったことを知りました。また、近所で阪神・淡路大震災を体験した人がいて、隣近所での協力の大切さを聞く機会がありました。

そこで、わたしたちも何かできないかと話し合い、つつじが丘南6番町第4班の全17世帯で自主防災チームをつくり防災訓練をすることになったのです。訓練会場は、すべての人が歩いて1分以内に来ることができる空き地です。遠くで実施される大きな訓練よりも気軽に参加できると思います。6年前から毎年かかざず訓練を実施していますが、毎回ほとんどの世帯の人に集まっていただいています。

地域の多くの人が訓練に参加することで、お互いの顔が分かりますし、家族の近況や「寝たきりの人が、玄関を入ってすぐの部屋にいる」など避難するときに必要な情報も交換できます。

## 訓練には楽しめる要素も取り入れる

これまで、各戸を巡回して避難を呼びかける訓練や応急手当、テントの設営、炊き出し訓練などを行ってきました。身近な人たちと身近な場所で実施する訓練ですので、比較的取り組みやすいのではないでしょうか。また、訓練に継続して参加してもらうために、子どもから大人まで参加者みんなが楽しめる要素を取り入れたりもしています。

例えば、炊き出し訓練では、薪や生木で火をおこすところから始めます。必死になりながらも、みんな喜んで取り組んでいましたね。また、テレビや新聞などから防災に活用できるユニークなアイデアを取り入れています。今年は、食用油をしみ込ませたティッシュをアルミホイルで包み、これをアルミ缶に入れた簡易式ランタンをつくりました。

## 訓練を生かし、班全員で助け合い

万が一、大規模災害が起きたときには、訓練会場である空き地に第4班の17世帯全員が集まります。そして、自分たちの班で逃げ遅れた人がいないかを確認することになっています。日ごろの訓練を生かして、慌てることなく助け合いができればと思います。

消防署が実施する「応急手当講習会」を訓練に取り入れ、近所に住むみんなが応急手当ての知識を確認する

被災地しおがまからの 証言 ⑤ >>

## 日ごろからの近所付き合いが大切と実感

塩竈市在住　斉藤 清子さん
（82歳／一人暮らしの高齢者）

3月11日、地震が起きたとき、怖くて怖くて玄関の柱にしがみついていました。すると、隣に住む20歳代の青年が「大丈夫か」と声を掛けにやってきてくれたんです。とっても心強かったですね。

また、避難所の生活は雑魚寝で大変なので、できるだけ家で過ごすことにしました。でも、食べ物や燃料がほとんどありません。そんなとき助けてくれたのも近所の皆さんでした。水や食べ物を家まで持ってきてくれたのです。本当に安心できましたし、感謝しています。日ごろの近所付き合いが大切だなと実感しましたね。

被災地しおがまからの 証言 ④ >>

## 島民全員が顔見知り。「団結力」が大きな力になりました

塩竈市浦戸桂島　区長　内海 粂蔵さん

桂島（塩竈市の松島湾にある島）では、年1回防災訓練を行い、地震が起きたら、まず高台に逃げるという訓練を繰り返し行ってきました。

3月11日、地震の大きさで、大きな津波がくることは予想できました。島民全員が顔見知りでどこにだれが住んでいるかが分かっているので、身体の不自由な人を介助するなどして、すべての人が高台の小学校に避難することができました。桂島では、約半分の家にあたる約40軒が津波の被害に遭いましたが、一人の死者もでなかったのが何よりでした。避難所でも、みんなが文句一つ言わず仮設トイレの掃除を順番で行いました。

島の約半数の家屋が津波被害に遭う

避難も避難所の運営も島の「団結力」が大きな力になったと思います。

**「応急手当講習会」受付中**　応急手当ての基本的な技術が体得できます。市内在住・在勤・在学の10人以上のグループで、名張消防署（☎63-0999）へお申し込みください。　◎定期的に開催する普通救命講習会（3時間）や上級救命講習会（8時間）もあります。